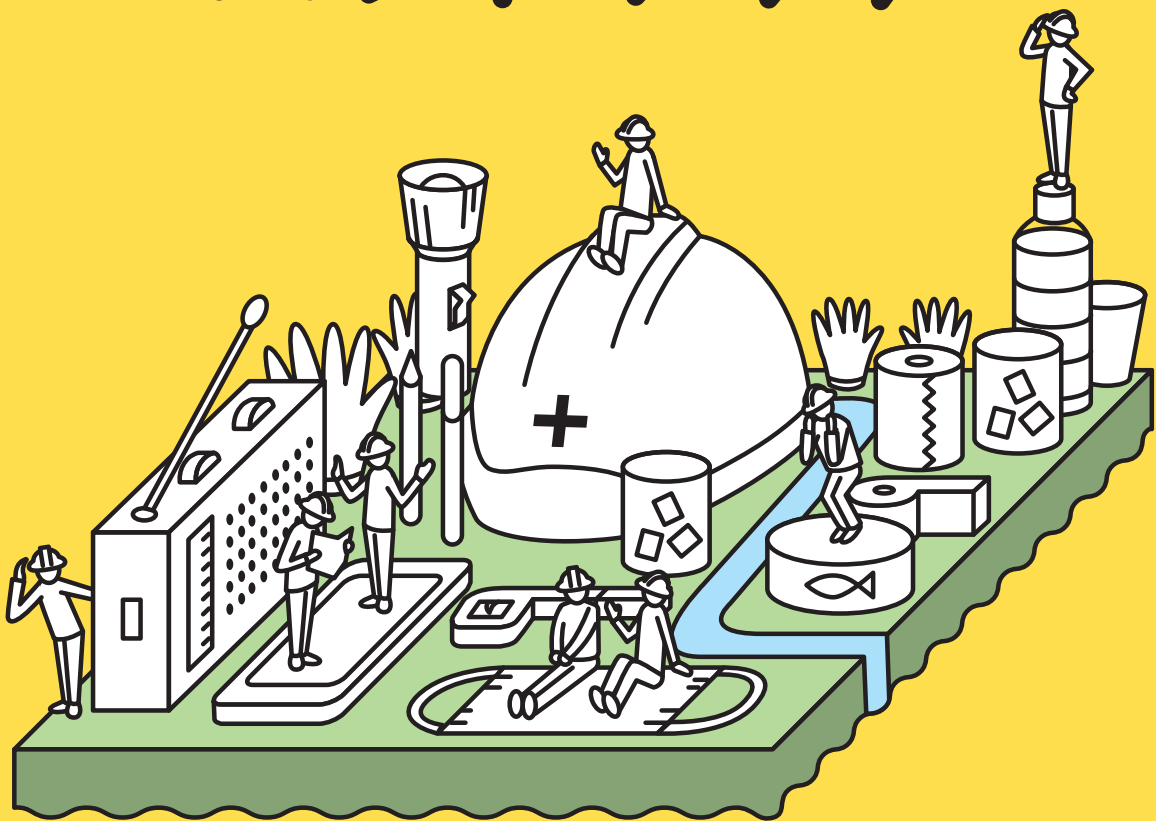


自然災害に備える

防災
ハンドブック



JA共済

防災メモ

いざというときのために、集合場所や家族の連絡先をまとめておきましょう。
携帯電話やスマートフォンは紛失・故障させてしまうと情報を失ってしまう
ため、必要な情報は防災メモに記載しておきましょう。
かかりつけの病院、常備薬がある場合も必ず記載しておきましょう。



家族・親戚の連絡先

氏名	☎	—	—
氏名	☎	—	—
氏名	☎	—	—
氏名	☎	—	—

災害後の連絡先

※避難先の情報や、ライフラインの復旧に必要な連絡先をメモしましょう。

	☎	—	—
	☎	—	—
	☎	—	—
	☎	—	—
	☎	—	—

かかりつけの病院・常備薬

病院名	☎	—	—
病院名	☎	—	—
病院名	☎	—	—
常備薬など			

避難場所

※一時的に安全確保をする場所

避難所

※災害後一定期間生活する場所

はじめに

命と財産を守るために

毎年、地震や水害などの自然災害によって、大きな被害が発生しています。自然災害は、いつ、どこで発生してもおかしくありません。「自然災害に備える 防災ハンドブック」では、災害から命を守るため、そして財産を守るために必要となる具体的な情報をまとめています。それは、事前に確認しておくべきこと、準備しておくべきこと、そして生活再建への備えなどです。

このハンドブックを読んで、家族と相談しながら事前の準備をしておくことで、いざというときの行動が変わります。このハンドブックが、みなさまの日常的な暮らしの安心につながることを願っています。

目次

命を守る



1 章	防災の基本	2
2 章	地震・津波	6
コラム	歴史から学ぶ「稲むらの火」	8
JA共済 コラム	“備え”と“つながり”が暮らしを守る	9
3 章	水害	10
4 章	避難生活	14

財産を守る



5 章	生活再建のために	16
JA共済 コラム	WebマイページとJA共済アプリで備えよう	20



このハンドブックでは、項目ごとに3つのアイコンで情報を分類しています。



事前に確認しておくべきこと



準備しておくべきこと



生活再建への備え

災害時に生き延びるために知っておくべきこと

1 「正常性バイアス」を知る

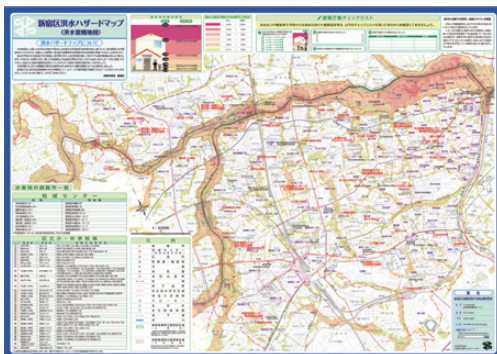
非常事態・緊急事態において、「自分は大丈夫」「たいしたことはないはず」と、状況を過少評価してしまうことがあります。これを「正常性バイアス」といい、パニックにならないために自らの精神を落ち着けようと抑制する心理作用がはたらくものです。しかし、それにより逃げ遅れてしまい、死につながる場合もあるため、危険です。「非常時は『正常性バイアス』がはたらく」ということを理解しておき、緊急時に逃げる準備をすることが必要です。



2 「地域のリスク」を知る

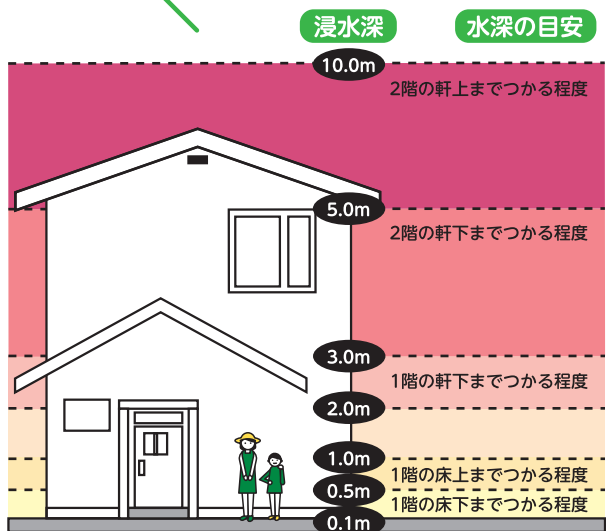
自宅や職場など、日常的に過ごしている場所にどのような災害の危険があるか知っておくことが防災の基本です。地域ごとの危険度は市区町村などの「ハザードマップ」で確認できます。ハザードマップとは自然災害が発生したときの浸水などの被害範囲を予想し、地図上に示したものです。想定される被害に応じて災害対策や避難経路を考えましょう。

ハザードマップ



出典: 新宿区洪水ハザードマップ

Check! ハザードマップの浸水深の色の見方



出典: 新宿区洪水ハザードマップ

Check! ハザードマップポータルサイト



出典: ハザードマップポータルサイト

国土交通省の「ハザードマップポータルサイト」では、市区町村ごとの「わがまちハザードマップ」と、住所から検索できる「重ねるハザードマップ」が閲覧できます。



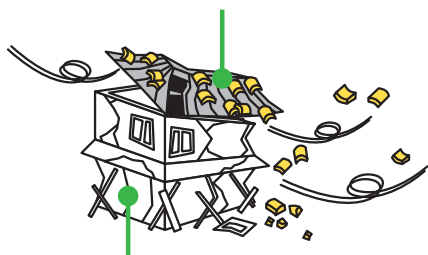
3 「住宅のリスク」を知る 📖

戸建ての場合

家屋倒壊

瓦屋根は2001年が基準！

2001年に策定された「瓦屋根標準設計・施工ガイドライン」に従った工法かチェック！

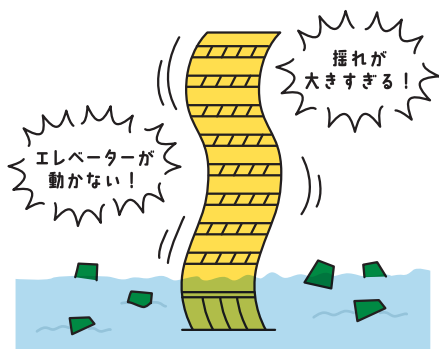


耐震性の目安は1981年

1981年6月に設定された「新耐震基準」では震度6強～7の大規模地震でも倒壊しないとされる

集合住宅の場合

逃げ遅れ



停電や長周期振動に注意！

高層ビルでは、停電によりエレベーターや給水ポンプが停止する可能性があります。逃げ遅れるだけでなく、生活物資や水の確保も困難になります。10階以上の高層階では長周期振動による大きな揺れにも注意が必要です。

水没

<外水氾濫>



<内水氾濫>



洪水には2種類がある！

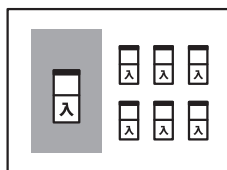
河川の氾濫や堤防の決壊による洪水を「外水氾濫」といいます。逃げ遅れた場合には2階などの高いところへ避難します。大雨などにより市街地の排水が間に合わず側溝などから逆流・あふれだすことを「内水氾濫」といいます。都市部で発生するリスクが高まります。



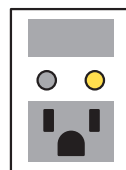
Check! 二次災害を防ぐために 📖

避難時はブレーカーを落とす！

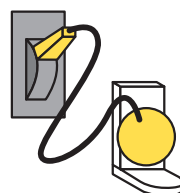
感震ブレーカー



分電盤タイプ



コンセントタイプ



簡易タイプ

停電後に、ドライヤーなどの電源が入ったまま電力が復旧すると、衣類などに着火して発火するおそれがあります。また傷ついたコードがショートして出火する危険性も。避難前にブレーカーを落とすことで防げますが、パニック状態で考えがまとまらないことも。衝撃を感知して自動的にブレーカーを落とす感震ブレーカーをつけておくと安心です。

非常時持ち出し品

急な避難に対応できるように、非常時持ち出し品を1人分ずつリュックサックなどにまとめておきましょう。避難に支障のない重さとなるよう、分量は一人ひとりに合わせて調節します。



チェックリスト ※1人分

食料など			衣料品		
☐	☐	☐	☐	☐	☐
飲料水 2ℓ～	非常食 3食	箸・フォーク・スプーン 1セット	下着・靴下 2～3日分	長袖・長ズボン 1着	タオル
衛生用品・医薬品			日用品		
☐	☐	☐	☐	☐	☐
ウェットシート 各1パック (体ふき用・口腔ケア用) 除菌用 各20～30枚	救急セット	体温計	ラップフィルム	ゴミ袋・ポリ袋 各5～6枚	トイレットペーパー 1ロール
☐	☐	☐	☐	☐	☐
マスク 多めに	常備薬・お薬手帳	非常用トイレ 5～6回分	生理用品	新聞紙 朝刊1日分	油性マジック
貴重品など			避難所生活の必需品		
☐	☐	☐	☐	☐	☐
印鑑・身分証明書・通帳のコピー	現金 計2万円 (小銭と千円札で用意)	エアマット	LEDランタン	レジャーシート	使い捨てカイロ



自宅に備蓄しておきたいもの

1 ローリングストックで備えよう

防災備蓄のために、食料や日用品を特別に用意すると、口に合わなかったり、使い方がわからなくなったりしてしまうことも。普段から消費しながら多めに買い置きをする「ローリングストック」で、使い慣れたものを備蓄するようにしましょう。



2 自宅用備蓄チェックリスト (4人家族3日分の場合の例*)

☐ 水 36ℓ	☐ レトルトご飯 36食	☐ レトルト食品 12個	☐ 缶詰 12缶
☐ 無洗米 5kg	☐ 飲み物 12本	☐ 簡易トイレ 60回分	☐ 除菌ウェットティッシュ 120枚
☐ アルコールスプレー 2本	☐ マスク 12枚	☐ 救急箱 1箱	☐ 常備薬 1箱
☐ 生理用品 30個セット	☐ おかゆ 18食 ※高齢者用品として	☐ 処方箋薬 医師・薬剤師に相談	☐ カセットコンロ 2台
☐ カセットボンベ 8本	☐ トイレトペーパー 4ロール	☐ ティッシュペーパー 4箱	☐ 懐中電灯 2灯
☐ 乾電池 単1～単4までのセット	☐ 携帯電話充電器 携帯電話の台数に 合わせて用意	☐ ラジオ 1台 ※手回し充電式など	☐ 給水袋 4袋
☐ LEDランタン 最低3台	☐ ヘッドライト 4個	☐ リュックサック 1個	

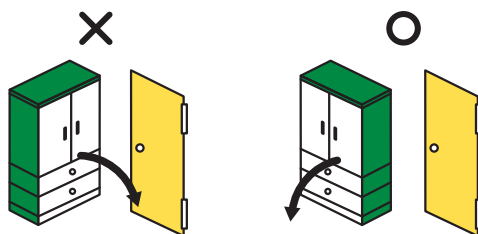
※東京備蓄ナビで算出した4人家族(構成:男女高齢者、男女成人/戸建て/ペットなし)3日分の数量。

※家族構成によって備蓄する量は変動します。ご家族の人数や生活様式に合わせて事前に必要な備蓄品の準備をしておきましょう。

家の中の安全対策

1 家具の配置

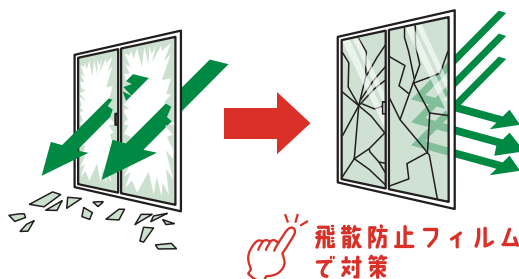
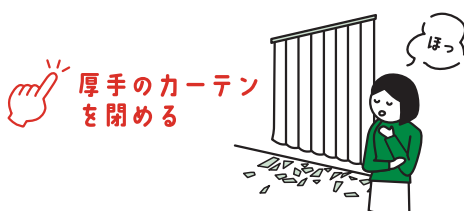
突然の揺れに備えて、家具は「倒れない」「飛ばない」「避難経路をふさがない」ようにしておくことがポイント。家具は必ず固定し、高いところから飛んできたもののけがをしないよう、重たいものは低い位置に収納しましょう。



家具がベッドや通りに倒れてこないように配置

2 ガラスの飛散を防ぐ

割れて飛散したガラスは大けがのもと。窓や戸棚などのガラスは、破損に強いものに交換し、もし割れてしまったときに飛び散らないようにする工夫が必要です。厚手のカーテンを閉めておくだけで一定の効果がありますが、ガラスの上に貼るだけで割れたガラスの飛び散りを防ぐ「飛散防止フィルム」はより効果的です。



Check! 固定器具の選び方

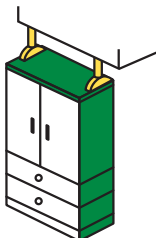
家具は転倒防止のため、壁や天井に固定します。ネジで固定するタイプは効果が高いですが、賃貸等でネジが使えない場合には、ネジ止めの必要がないポール式やストッパー・マット式を活用しましょう。

ネジ止め無 ▶ 賃貸などに

ストッパー・マット式

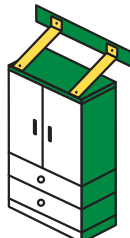


ポール式



ネジ止め有 ▶ 効果大

ベルト式



L型金具



ストッパー・マット式 と ポール式 を組み合わせて使うと L型金具 と同等の強度に!

弱

強度

強

避難時のポイント

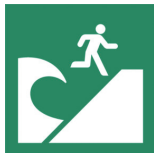
1 津波標識をCheck！

津波注意



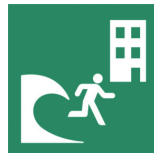
津波来襲の危険がある地域

津波避難場所



津波に対して安全な高台

津波避難ビル

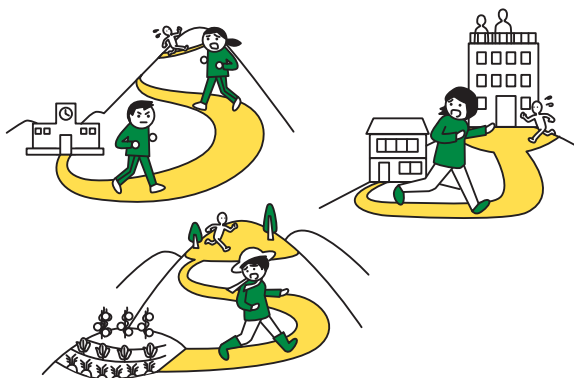


津波に対して安全な避難ビル

出典：津波標識ガイドライン

2 「津波てんでんこ」

「てんでんこ」とは東北地方の方言で、「それぞれ」「おのおの」という意味です。「津波が起きたら各自ばらばらになって高台に走って逃げろ」という教訓を表したものが「津波てんでんこ」です。家族を迎えに行ったり、待ったりしている余裕はありません。



3 遠くよりも高く

津波からの避難は遠くへ逃げるより、高く逃げるほうを優先してください。高台や津波避難ビルの位置をあらかじめ確認しておき、いざというときに避難する準備をしておきましょう。



4 絶対に戻らない

避難後に津波が来なかったからといって、安易に自宅に戻ることは絶対にいけません。津波は第2波、第3波と長時間にわたって繰り返し襲ってくることが考えられます。警報が解除されるまでは避難場所で待機してください。東日本大震災の際、北海道函館市では地震発生から約9時間後に波高約2.4mの津波が記録されました。



はまぐち ごりよう

濱口梧陵の実話から生まれた物語



「稲むらの火」とは、1854(安政元)年に発生した安政南海地震の際の実話をもとにした物語です。紀州藩広村(現和歌山県広川町)の豪商・濱口梧陵(儀兵衛)が、稲むら(稲の束)に火をつけて津波から村民を救ったエピソードに基づいています。1937(昭和12)年の小学校5年生用の国定国語教科書に掲載され、1947(昭和22)年まで用いられました。64年後の2011(平成23)年度の小学5年生用教科書『国語 五 銀河』には、「百年後のふるさとを守る」のタイトルで、梧陵の伝記が掲載されました。

左:和歌山県有田郡広川町の「稲むらの火祭り」

「稲むらの火」あらすじ



「稲むらの火」を題材にしたアニメ映画の本(発行:金の星社)

江戸時代の終わり、祭りの支度でにぎわう海辺の村に地震が起こった。丘の上の庄屋の五兵衛は、その揺れ方や海の様子に津波が押し寄せてくることを確信した。村人の危険を悟った五兵衛は、人々を救うため自身の稲むらに火をつけて、火事だと思わせることによって、皆を高台へと導き救った。

「稲むらの火」が生まれるまで



五兵衛のモデルとなった濱口梧陵

「生き神」の作者・小泉八雲



小泉八雲記念館提供

子どもたちに伝える梧陵の教訓

梧陵は地震による惨状の中、暗夜の避難経路を知らせるため自身の稲むらに火をつけて、多くの村人を救いました。これに感銘を受けた小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)は実話をもとに「A Living God(生き神)」として物語にしました。それに感激した和歌山県の教師・中井常蔵が子供向けにわかりやすく書き直したものが「稲むらの火」として世に広く知られるようになりました。

今に伝わる「稲むらの火」の精神



和歌山県有田郡広川町の広村堤防

広川町立耐久中学校校庭の濱口梧陵銅像

梧陵は将来の津波被害を防止するため、私財を投げ打って1855(安政2)年から、堤防の建設を進めました。全長600m、高さ5mに及ぶその姿は、広川町のシンボルとなり、国の史跡にも指定されています。また梧陵は、人材育成や学問の発展、社会貢献にも尽力し、梧陵が作った耐久社は現在も耐久中学校・耐久高校として存続し、学生たちが日々学んでいます。広川町では2003(平成15)年から「稲むらの火祭り」を開催し、地域住民が松明を手に行進し、防災の大切さを今に伝えています。

“備え”と“つながり”が暮らしを守る

JA 共済コラム

Column

2024年元日に発生した令和6年能登半島地震は、最大震度7を観測し甚大な被害を及ぼしました。もし自宅が被災してしまったら、どんな保障が受けられるのか。体験者にお話を聞きました。

気にかけてくれた LA(ライフアドバイザー)には 心から感謝しています

きり こうよう
梧 光洋さん(JA 組合員)

石川県珠洲市で代々続くお寺の住職。今回の震災では家屋および寺院が損壊・倒壊し「建物更生共済」の保障を受けた。現在は妻、次男とともに珠洲市内の仮設住宅で暮らす。



生きることに精一杯で
保障に考えが及ばない

忘れもしない元日の午後4時10分。やや強い揺れを感じた数分後、これまで経験したことのないような激震に見舞われました。大津波警報が発令されたのはその直後。我が家は海のそばに建っているため一刻の猶予もありません。倒壊家屋の土埃が舞う中、一家全員で近所の高台へ急いで登り、避難することができました。

以降は小学校の体育館に身を

寄せつつ、昼間は周辺の作業や雑務に追われ、夜は車中泊の日々。毎日起きて食べて寝ることに精一杯で、倒壊した寺や自宅のことまでとはとても考えが及びません。自分が加入している共済の契約内容はおろか、共済証書がどこにあるかも把握できないまま時間が過ぎていきました。

LAからの連絡を受けて
査定、共済金の受給へ

JA共済担当者の瀬戸谷さんから息子を通じて連絡をもらったのは3月に入ってからのことです。互いに大変な状況にもかかわらず、気にかけてくれること自体、頭の下がる思いでした。

これをきっかけに3月11日に査定(鑑定)を受けました。翌々日の13日には保障額の提示を受けて、19日には請求書を作成。4月17日には入金を確認できました。

共済金をもとにして
生活再建に前進したい

被災して初めてわかったのは「もしもの備え」の大切さ。そして、備えを有効活用するために連絡の取りやすい携帯電話番号を伝えておくことも大切だと実感しました。今後は共済金をもとに生活再建に前進したいと考えています。

LAから見た震災

連絡手段を見直すのも 立派な防災です

瀬戸谷 志文さん
(JAのと・ライフアドバイザー)

査定を呼びかけるべく
避難所を回って呼びかけた

震災直後は、JAのと7支店のうち、3支店は電話がつかない状況で、出勤できる職員もごくわずかでした。

そんな中、震災1週間後には組合員のための相談窓口を設置しました。ただ「自宅が損壊したので査定に来て欲しい」という問い合わせはほとんどありませんでした。実際は生き延びることに必死でそれどころではなかったのかもしれません。

そこで、こちらが把握している連絡先に「ご自宅はどうなっていますか」とお声がけすることになりましたが、自宅の固定電話の番号を連絡先として登録している方が多いため、損壊や避難により不通のケースがほとんどでした。このため、手紙を郵送したり、各避難所を訪れて被災した組合員に直接お

会いすることで、なんとか査定にこぎつけるケースが少しずつ増え、いきました。

連絡手段は多いほど
いざというとき役立つ

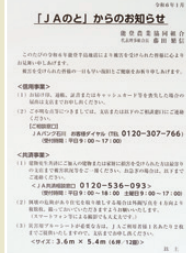
梧さんの場合は、たまたまご家族の携帯電話番号を私が控えていたこともあって、比較的連絡がつかやすいケースだったと思います。連絡手段は多ければ多いほど、いざというときに役立ちます。契約時の連絡先を見直してみるのも、立派な防災につながる行動ではないでしょうか。

JA職員として 組合員をサポートしたい

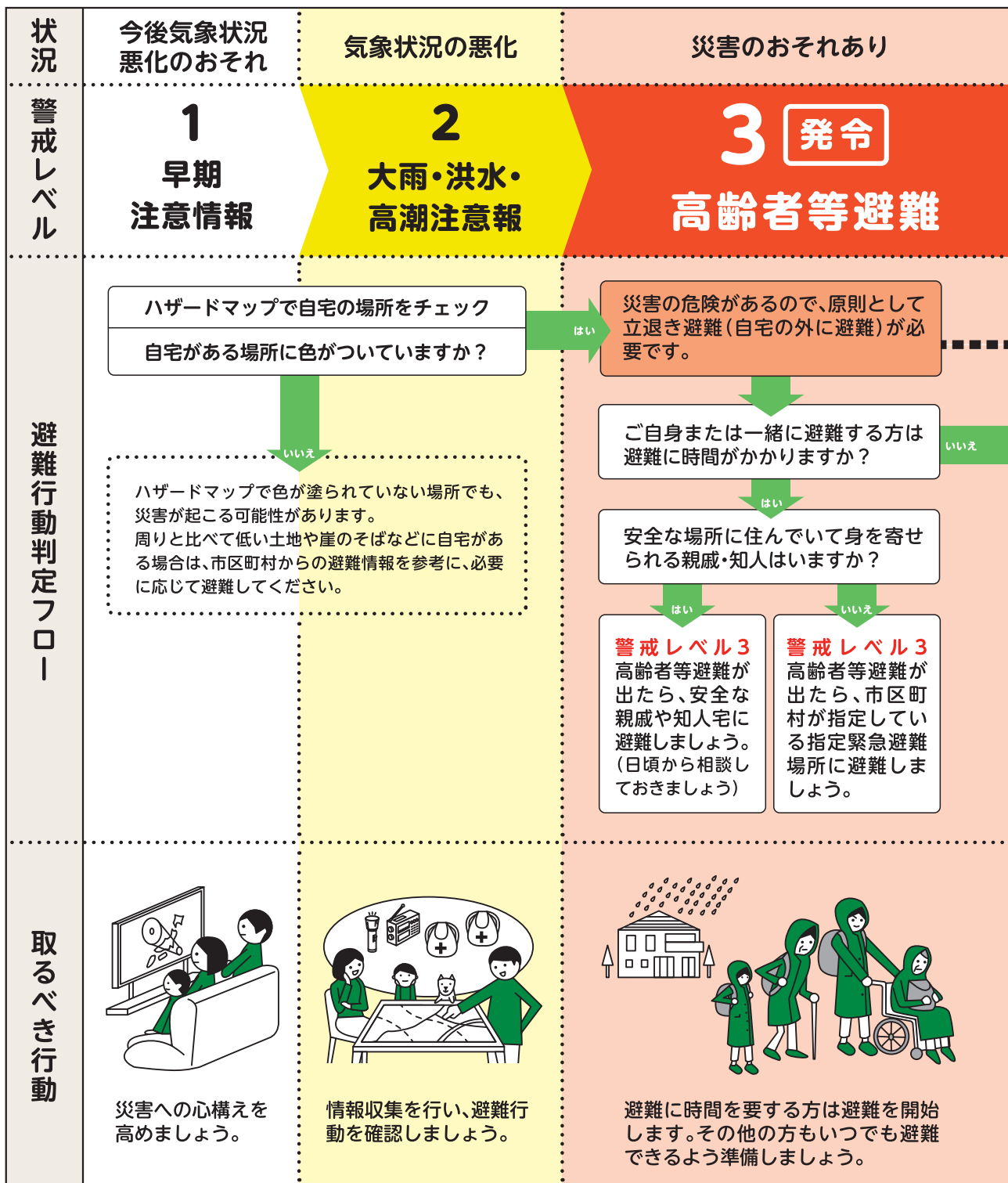
今回の震災では、JA職員も被災者となりました。自分の生活がままならない中で業務にあたるのは想像を絶するほど大変です。それでも踏ん張ることができたのは、一人でも多くの組合員をサポートしたいという強い使命感があったからこそだと思います。

向平 直美さん(JAのと・共済部 部長)

※役職は取材当時のものです。



各避難所にJAのとの連絡先を貼り出して呼びかけを。

警戒レベルと避難のタイミング 

台風や豪雨による洪水・土砂災害の被害は、自宅の場所により大きく異なります。

ハザードマップは必ず確認しておきましょう。

大雨が予想される際には、情報収集につとめ、各自治体からの避難情報に従いましょう。



災害のおそれ高い

災害発生または切迫

4 発令

避難指示

5 発令

緊急安全確保

例外

※浸水の危険があっても、次の3つが確認できる場合は屋内安全確保(自宅に留まり安全確保すること)も可能です。

- ①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
- ②浸水する深さよりも高いところにいる
- ③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚・知人はいますか？

はい

警戒レベル4
避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。
(日頃から相談しておきましょう)

いいえ

警戒レベル4
避難指示が出たら、市区町村が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう。



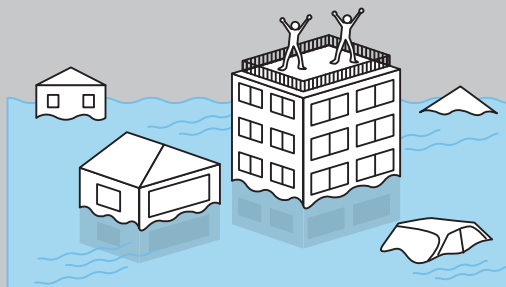
対象地域の方は避難場所へ全員速やかに避難しましょう。警戒レベル4までに全員が避難しなければなりません。



災害が発生してからでは遅い！

警戒レベル4 避難指示

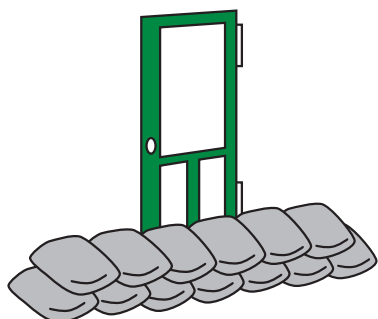
までに必ず避難しましょう！



直ちに命を守るため最善の行動をとりましょう。

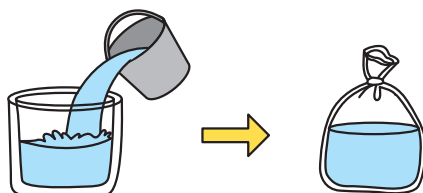
豪雨・台風の前にしておくべき対策

1 土のう・水のう



玄関や車庫などへの浸水対策に有効です。自作する場合は水のうのほうが手軽ですが、無料で土のうを配布している自治体もあるので、事前に確認しておきましょう。

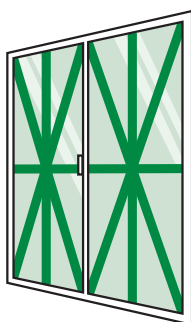
2 簡易水のうの作り方



- ① ゴミ袋(45ℓくらい)を二重に重ねて、水を半分くらいまで入れる。
- ② 中の空気を押し出して袋の口をねじって縛る。

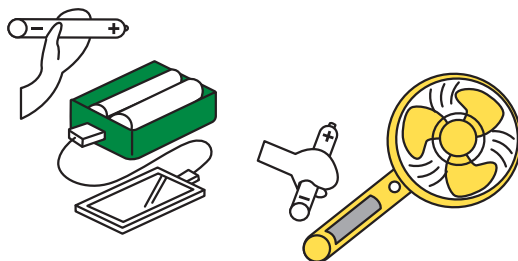
土のうの用意が難しい場合には、簡単に手作りができる簡易水のうを用意しましょう。浸水を防ぐことはもちろん、トイレの便器の中や、風呂場、洗濯機の排水口に水のうを置くことで水の逆流を防げます。

3 窓ガラスの飛散対策



飛来物に備えて雨戸やシャッターを閉め、外に置いているものをしましましょう。ガムテープ・養生テープで窓ガラスに縦・横・斜めに目貼りすれば、ガラスの飛散を軽減できます。

4 停電対策



長期の停電に備え、乾電池とモバイルバッテリー・LEDランタン・扇風機など(すべて乾電池式のもの)を用意しましょう。また、浸水による漏電や二次災害を防ぐため、停電後はブレーカーを落とします。



Check! マンション・アパートでも水害に注意

マンション・アパートに住んでいて、居住スペースに浸水のおそれなくても、共有設備への被害に注意が必要です。例えば電気設備が地下や地上付近にある場合、浸水による停電、それに伴うエレベーターの停止や断水のリスクがあります。事前に「非常用電源」や、「非常用給水栓」の有無や使い方を確認し、自宅避難ができる備蓄をしておきましょう。

避難の際の注意点

1 長靴は履かない



水害による避難の際に長靴で移動すると水や土砂が入って歩きづらくなることも。履きなれたスニーカーと、動きやすい服装で避難することが重要です。

2 マンホールに注意



大量に流れ込んだ雨水で、マンホールや側溝のふたが外れていることがあります。浸水した場所は足元が見えづらいため、傘や長い棒などで足元を確かめながら歩きましょう。

3 風が強いときに傘はささない



台風などで避難する場合、強い風の中で傘は役に立ちません。壊れた傘でけがをしてしまうこともあるので、傘はささずにレインコートで避難しましょう。

4 車中閉じ込めに注意



車のドアにかかる程度の水深でも、ドアを開けることが難しくなることもあります。車での避難はなるべく避け、万が一のために窓ガラスを割って脱出できるハンマーを運転席近くに備えておきましょう。



Check! 「避難場所」と「避難所」は全く違うもの

災害発生時の避難先は「避難場所」と「避難所」に大別されます。「避難場所」は災害発生時に身の安全を確保する場所で、「避難所」は災害の後に一定期間生活するための空間です。「避難所」では災害直後の身の安全を確保できない場合もあるため、避難先はタイミングや状況によって適切な場所を選択できるように確認しておかなければいけません。

避難所で生活するための備え

避難所には配給物資や情報が集まりやすいというメリットがあります。しかし、乳幼児や妊婦、高齢者、障がい者、ペット同伴など、家族構成によっては必要な支援や物資が十分にいきわたらない可能性があるため、特別な備えが必要です。

1 乳幼児がいる場合



非常時の物資は成人用のものが中心。おむつやおしりふきなどのベビーグッズは普段から多めに備えておき、すぐに避難先へ持ち出せるようにしておきましょう。また、液体ミルクなどの非常食を普段から定期的に与え、慣れさせておくことも大切です。

2 妊婦がいる場合



災害時は医療現場の混乱が予想されます。母子手帳はコピーを取るなどして必ず携帯し、かかりつけ医以外でも適切な診療が受けられるようにしておきましょう。産後に必要なおむつや授乳用品は避難所で不足しがちなため、早めに準備しておくとう安心です。

3 高齢者・障がい者がいる場合



避難生活でとくに配慮が必要な人のために福祉避難所が設けられている場合があります。場所や利用条件を事前に確認しておきましょう。自宅などで医療器具を使用している場合、停電などで使えなくなったときの対処法を事前に考えておくと慌てずにすみます。

4 ペットを飼っている場合



災害時はペットフードやシーツなどが不足する場合があります。多めに備蓄しましょう。また、避難先でのトラブルを避けるため、普段から人に慣れさせておくとう安心です。在宅避難や車中泊、テント泊なども選択肢として検討しておきましょう。



在宅避難時の注意点

大規模災害時、避難所が圧倒的に不足することが予測されています。災害後も自宅が継続して住める状態であれば、国や自治体は在宅避難を推奨しています。在宅避難はプライバシーが保たれ、感染症のリスクも低いといったメリットがありますが、非常時ならではのトラブルが発生する可能性も知っておかなくてはなりません。

1 二次災害に注意



二次災害の危険があるときはすぐに退避

問題のない家屋に見えても、ガス管や壁などの見えない箇所が損傷している場合も。在宅避難中、ガスのにおいや壁のひび割れなどの異常があれば、すぐに避難所へ移動しましょう。

2 不審者や詐欺被害



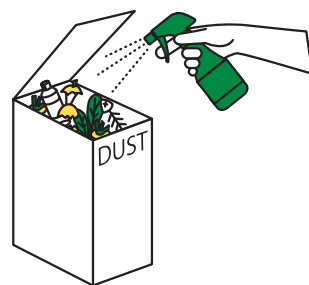
災害の混乱に乗じた詐欺や、悪徳商法に注意しましょう。過去の災害時にも家屋修繕業者などをかたった高額請求の被害が確認されています。訪問者の身分証は必ず確認しましょう。

3 トイレの逆流



災害後も問題なく使えそうなトイレでも、排水管の破損により水を流すと汚水が逆流してしまふことがあります。トイレに水を流すのは、下水道の復旧を確認してからにしましょう。

4 ゴミの管理



在宅避難の場合、ゴミの収集が復旧するまで自宅にゴミを保管しなければなりません。ふたつきのゴミ箱や、密閉できる衣装ケース、消臭剤やオムツ用の消臭袋などを活用しましょう。



Check! 新しい避難の形

避難所や在宅避難以外に、知人や親戚を頼る「縁故避難」や、「ホテル避難」という選択も。被害状況や家族構成にあわせて、適切な避難の形を取りましょう。

罹災証明書をもらう

1 市区町村へ申請

申請



役所でもらうか、ホームページから申請書をダウンロードして、居住者または所有者自身が申請をします。印鑑と身分証明書などが必要です。

調査



市区町村の担当者が住居の被害程度を調査し、建物の外から全壊か否か、傾きがあるかなどの損傷程度を判断します。

発行



罹災証明書の発行までに1か月以上かかることもあります。発行されたら、右記の支援や給付に活用することができます。

支援



被災者生活再建支援金・義援金などの給付、税金・保険料・公共料金などの減免や猶予、災害援護資金などの融資、応急仮設住宅の支給・住宅の応急修理などが受けられます。

2 罹災証明書で証明される被害の程度

準半壊

10%以上20%未満の損壊



半壊

20%以上30%未満の損壊



中規模半壊

30%以上40%未満の損壊



大規模半壊

40%以上50%未満の損壊



全壊

50%以上の損壊



出典：災害に係る住家の被害認定基準運用指針（平成13年作成、令和6年最終改定）
内閣府ホームページ

3 住宅の応急修理制度

災害救助法が適用される大規模災害により住居が損壊して住めなくなった場合に、日常生活に必要な最小限度の応急的修理を自治体が行う制度です。

対象者の条件

- ① 災害のため住家の中規模半壊・半壊し、自らの資力では応急修理をすることができない者、災害のため住家が大規模半壊した者
- ② 災害のため住家が準半壊し、自らの資力では応急修理をすることができない者

※全壊の場合でも、応急修理を実施することにより居住が可能である場合は支援の対象となる

修理のために支出できる費用

- ① 半壊以上の世帯 ▶ 71万7000円以内
- ② 準半壊世帯 ▶ 34万8000円以内

救助期間

災害発生の日から3か月以内に完了（国の災害対策本部が設置された災害においては6か月以内）

出典：内閣府告示第二百二十八号
災害救助法施行令（令和六年八月一日内閣府告示第百二号）
内閣府ホームページ

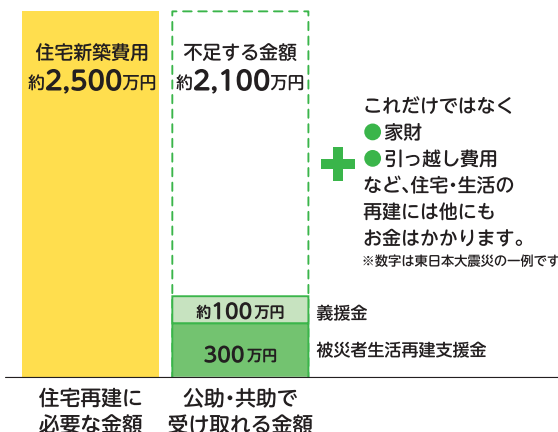


被災後の金銭的実情

1 「全壊」被害から住宅再建にかかる費用

公的支援だけで住宅再建はできない

先に紹介した公的支援は応急処置的なものが多く、受給にも厳しい条件が課されています。公助だけでは生活再建が難しいことがほとんどであり、もしものときに大きな安心となる共済に加入しておくなど、日ごろの備えが必要です。右記の例は東日本大震災で住宅が「全壊」し、住宅を新築した場合にかかった費用の一例と、支援金などで得られた金額を比べたものです。新築費だけでなく、家財の買い替えや仮住まいの費用などを考えると、圧倒的に不足していることがわかります。



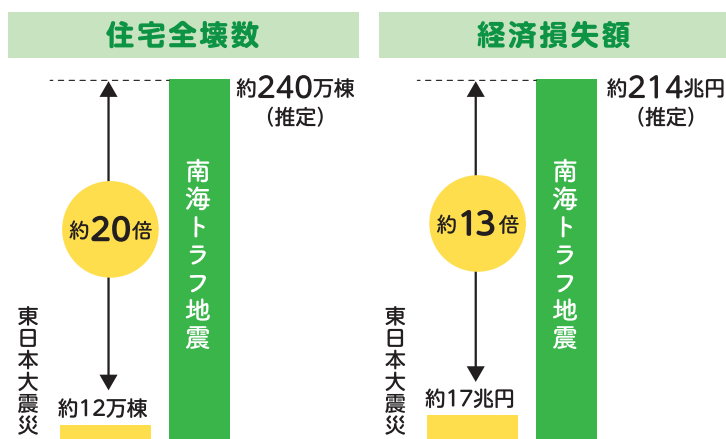
出典：内閣府ホームページ

2 被災後に起こりうる住宅リスク

新築費用・家財費用・仮住まい費用のほかにも、住宅ローンを抱えている人の場合は、全壊した住宅のローンに、新築する費用の新規ローンが加わり、「二重ローン」に陥るおそれがあります。家の新築を見送ったとしても、もとのローンに加えて賃貸の家賃が発生することになり、被災後の経済的負担は重くのしかかることになります。



3 もしも南海トラフ地震が起こったら



出典：内閣府ホームページ

東日本大震災をはるかに上回る大惨事に！

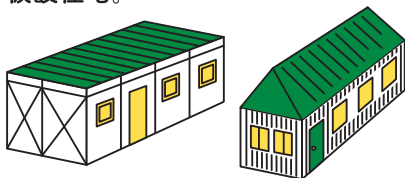
南海トラフ地震が30年以内に起こる可能性は80%といわれています。もしも南海トラフ地震が発生したら、推定住宅全壊数は東日本大震災の約20倍、経済損失額は約13倍になるといわれています。30年以内に訪れる大惨事とは明日のことかもしれません。

仮住まいの選択

1 行政支援による仮住まい(応急仮設住宅)

応急仮設住宅

公園や学校の校庭など、被災地近くに建設される仮設住宅。



😊 メリット

今までの生活スタイルやコミュニティを維持しやすく、同じ敷地内に多数設置されるため生活支援が受けやすく、情報も伝達しやすい。

😞 デメリット

完成までに1か月近くかかることもあり、その間避難所生活を余儀なくされる。入居希望者が多く、倍率が高い。

応急借上げ住宅

都道府県が民間の賃貸物件や公営住宅、空き家などを借り上げて被災者に提供する。



😊 メリット

毎月の家賃・共益費・管理費や損害保険料などの費用を、一定の範囲内で自治体が負担してくれる。

😞 デメリット

被災地近くにまとまった戸数が確保しにくく、世帯の希望に沿った条件の物件を提供するのが難しい。

2 自ら住まいを確保する

賃貸住宅を借りる

自分で賃貸物件を探して契約し、入居する。



😊 メリット

場所や間取りや住まいの種類を自由に選べる。

😞 デメリット

経済的負担が大きい。

親戚や知人の家を頼る

親戚や知人の家に住まわせてもらう。



😊 メリット

経済的負担が少なく、孤立を防げる。

😞 デメリット

長期化するとたがいにストレスとなり、トラブルにつながる。

広域仮住まい

実家のある場所や住んでいたことがある場所に避難する。



😊 メリット

余震など二次災害のおそれがなくなる。生活再建のめどを立てやすい。

😞 デメリット

仮住まいではなく、移住となる可能性が高く、地元とのつながりがなくなるおそれがある。

生活再建のための備え



① 「全壊」した場合の新築費用や引っ越し費用

「もう古い家だから…」は通用しない！

「古い家だから壊れても仕方ない。壊れたら引っ越せばいい」と、何の備えもなく被災したらどうなるでしょうか。新築する際にはまず、壊れた家を取り壊す作業が必要となり、その取り壊し費用や、賃貸に引っ越す際の引っ越し費用など必要となります。同じ土地に新築しなかったとしても想定外に出費が重なるおそれもあるので、もしもに備えてJAの建物更生共済に加入しておく安心です。



② 新築費用だけでなく、家財の備えも必要

建物だけでなく家具なども新調することになる

家が「全壊」した場合、同時に家具や家財も壊れている可能性が高く、家を新築したり、引っ越ししたりする場合には一度に新調しなくてはならないため、大きな負担となります。建物の保障だけでなく、家財の保障も考えておくことに安心です。



③ 建物更生共済の特長

幅広い自然災害に対応

JAの建物更生共済は、地震や津波、台風、豪雨、落雷などの自然災害に加え、火災や盗難などによる損害も幅広く保障する共済です。万が一被災してしまったとき、生活再建に必要な資金に不安がないよう、備えておくことができます。

※建物更生共済の詳細は、お近くのJA(または担当者)にお問い合わせください。

※この資料は概要を説明したものです。ご検討にあたっては、「重要事項説明書(契約概要)」を必ずご覧ください。

また、ご契約の際には、「重要事項説明書(注意喚起情報)」および「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。



WebマイページとJA共済アプリで備えよう

もしも被災したときのために

万が一の災害に備えて、JAの建物更生共済などに加入しておくことは、被災後の生活再建に向けた金銭面での不安の解消につながります。しかし共済金が本当に必要になったとき、どこに連絡してよいかわからなくなる、自宅の倒壊や浸水等で証書を紛失する、といった状況が予想されます。本当に必要な時に必要な共済金をスムーズに受け取れるように、WebマイページとJA共済アプリを活用しましょう。

災害後の混乱の中では、契約の確認やJAへの連絡に時間がかかってしまうことも。WebマイページとJA共済アプリでいつでも確認・連絡ができるようにしておきましょう。



Webマイページの概要

Webマイページは、JA共済のご契約者さまが利用可能なオンラインサービスです。ご契約内容の確認や登録情報変更などの各種手続きをインターネット上で行っていただけます。



ご登録済みの場合は、Webマイページにログインして情報を確認してみましょう。



新規登録・ログインはコチラから！



二次元コードから、もしくは

JA共済 Webマイページ

検索



Webマイページから携帯電話番号をご登録ください！

携帯電話番号をご登録いただくことで、万が一被災した場合でも、JAからの連絡や案内がスムーズに受けられます。

登録手順

Webマイページに
ログイン

メニュー画面から
「お手続き」

「携帯電話番号(JA共済ID)」
設定

携帯電話番号を登録



もしものときにいち早く安心をお届けするために、ご登録をよろしくお願いいたします。

登録は簡単
4ステップ



JA共済アプリでできること

契約内容を確認できる

保障内容や共済掛金など各契約情報を一覧でチェックすることができます。



シーンごとに保障がわかる

病気や自然災害といったシーンごとに、ご契約中の共済の保障内容を確認できます。



もしもの時すぐ連絡できる

入院や手術、いへの被災、くるまの事故や故障など、共済を必要とする時にJAにスムーズに連絡できます。



日ごろから、アプリで防災対策もできる

防災情報の確認

✓ 防災アラート

アプリで地震や警報の情報を受け取りましょう。

避難場所の把握

✓ 防災マップ

近くの避難場所やハザードマップを確認しましょう。

防災対策を知る

✓ 防災チェックリスト

日常から取り組める防災対策を確認しましょう。

✓ 防災手帳

防災情報をお知らせ

マップで避難場所をお知らせ



安心を、いつでも手元に。
JA共済アプリ

ダウンロード
はこちら！

App Store
からダウンロード



Google Play
で手に入れよう



ログイン情報の管理

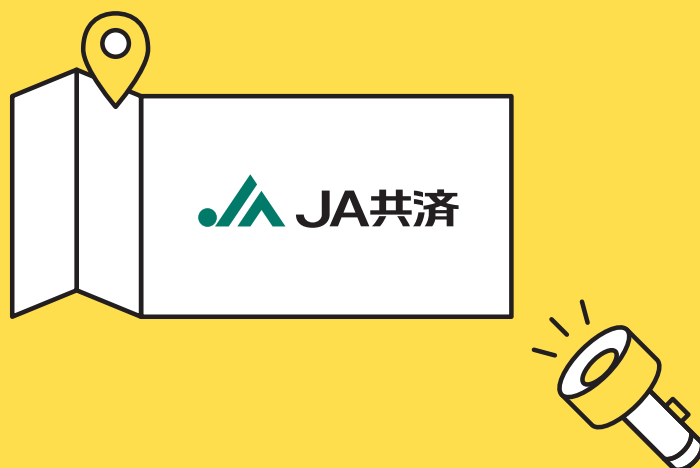
Webマイページ・JA共済アプリの利用に必要な情報は、忘れないようにメモしておきましょう。

JA共済ID・パスワードメモ欄

JA共済ID (メールアドレスまたは携帯電話番号)

パスワード 半角英数字混合 8文字以上。

※JA共済IDやパスワードなどの個人情報は、他人に見られないように十分注意して管理してください。



聞かせて!

くらしのこと アンケート
キャンペーン



アンケートに
答えるだけで
豪華賞品が
当たるチャンス!

お問い合わせは

共済に関するご相談については、お近くのJA(または担当者)にお問い合わせください。

25481020161